

## 平成 25 年度 鴨川アクションプランフォローアップ委員会の概要

### ■開催日時

平成 26 年 3 月 25 日（火） 13:30～15:30

### ■場所

京都平安ホテル

### ■出席者

委員 5 名（敬称略、五十音順）

中川 博次（京都大学名誉教授）（委員長）

勝矢 淳雄（京都産業大学名誉教授）

川崎 雅史（京都大学大学院教授）

戸田 圭一（京都大学大学院教授）

吉村 真由美（森林総合研究所主任研究員）

（欠席）

丘 眞奈美（歴史ジャーナリスト、放送作家）

金田 章裕（京都大学名誉教授・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構長）

町田 玲子（京都府立大学名誉教授）

水野 歌夕（写真家）

### ■資料

資料 1 鴨川・高野川の平成 25 年度整備内容について

資料 2-1～2-3 中州管理および水制工モニタリングについて

資料 3 千年の都・鴨川清流プラン 具体的施策を進めるにあたっての配慮事項等について

資料 千年の都・鴨川清流プラン

資料 鴨川景観対策（エアコン室外機等対策）ガイドライン

資料 平成 25 年台風 18 号による桂川・鴨川の出水と対応

### ■質疑応答

#### 報告事項「平成25年台風18号による桂川・鴨川の出水と対応」

【勝矢】堰を撤去するということだが、この堰はどういう目的でつくられたものか。

【事務局】今回、撤去する 1カ所は、現在は取水機能を持っていない昔の取水堰と聞いている。

【勝矢】計画高より低いところをかさ上げするということだが、これ以外に低いところはないか。

【事務局】低い区間はここしかない。ほかは、これと同じ高さあるいは若干高い。

【戸田】桂川の久我橋の溢水によって、どの程度被害が出ているのか。

【事務局】資料がないのでわからない。調べて連絡する。

#### 議題 1「鴨川・高野川の平成25年度整備内容について」

【勝矢】終野堰堤の土砂は、どの程度撤去するのか。深さとしてはどの程度か。

【事務局】7,000m<sup>3</sup>程度。水面程度なので、1メートルぐらいと思われる。

【中川】 五条から七条右岸側の園路は、今後延長する予定か。

【事務局】 五条でみそそぎ川が鴨川に落ちて切れる形で終わっていること、治水能力がまだ十分確保されていない部分があること、今まで全く人が入っていないところに急に人を入れていくと地域の理解も必要になってくることから、少し時間をかけて考えていく必要がある。今回のアクションプランでは入っていない。

【戸田】 中州の堆積土砂撤去の2カ所について、出水によって当初考えていたよりも土砂の撤去が少なかったのか。それともあまり動かなかったので、大体当初の予定どおりだったのか。

【事務局】 上流側は、今回の出水で中州が移動し位置が変わったが、ほぼ従前と変わらない状況。下流は、右岸側に土砂の堆積が進んでいる状況で、量が増えた。

## 議題2 「中州管理および水制工モニタリングについて」

【川崎】 たまりやすい箇所、場合によっては全部撤去し、護岸のほうを少し残したほうがいいのか、撤去形状に対するこれからの見通しは。

【事務局】 流れが弱まる場所、川幅が広がる場所、カーブの内側はたまりやすいところがある。10年のサイクルを基本とするが、必要に応じて取り組んでいく必要があると考えている。

【吉村】 中州除去の前後で生物環境のモニタリングを行うということだったが、その結果は。また、H25実施の土砂撤去前後で、モニタリングしているのか。

【事務局】 中州管理にあわせて、植物、底生生物の調査は定期的に行っている。12カ所程度の箇所で調査を行っている。植物の種類は施工前に比べて増えてきている状況。外来種は極端に多い状況にはなっていない。底生生物は減少傾向にあり、比較的ハエモクのようなたまり水を好むようなものが減少傾向にある。土砂撤去の前後では調査していない。

【吉村】 5年間のデータがあるので、こういう中州管理をしたら生物の数が減るとか、増えたとか、そういうまとめをそろそろしていくべきだ。

【戸田】 これは、まさに川そのものが生き物であるということを如実に示している、非常に貴重なデータ。こういう基礎的な観測、データを積み重ねて、経年的にどうなっていくのかを調べるのは、これから研究者がやっていくべきテーマでもあると思う。だから、このような丁寧な観察、データの集積を引き続き続けていくことが、最も大事な基礎調査になると感じている。

水制工そのものは、治水を念頭においた河川構造物であって、副産物的に、魚や生物にとってよい環境ができてくる。水制工というよりは、どんな方法を加えていけば、河川環境をそう大きく変えない範囲でよくしていくのかという、現地実験みたいなものをされているという感じを受けたが、そういう理解でよいか。

【事務局】 環境対策がかなり大きなものを占めるというふうに考えている。

【事務局】 これらの変化がもたらした環境へのインパクト、影響についても、今あるデータで、できるだけ分析していきたい。

【中川】 流砂特性、洪水、河川の特長など、総合的な関係がつかめるので、これから5年間、データを収集していただきたい。横断測量はやっているか。

【事務局】 できていない。部分的には把握しているところがあるので、今後は、そういった材料をうまく組み合わせられる範囲で、と考えている。

### 議題3 「千年の都・鴨川清流プラン 具体的施策を進めるにあたっての配慮事項等について」

【川崎】鴨川の特徴というのは非常に急勾配で、流れや落水の表情とかがある。よどみが少なく、水面の清流、そういう景観の特質を持っていることも、どこかで触れておいたほうが良い。

また、線形が真っ直ぐで水の筋に対して全て見通しのきく景観が続いている。京都市街の部分はとくにそのような景観が多いので、清流と共に景観の特質を少し加えたほうが良い。

【戸田】魚道設置では、まず鴨川の魚の実態がどうか、それが最近どのように変化しているのかということ、きちんと押さえてほしい。

【事務局】鴨川は、5年に一度、定点で上流から下流にかけて魚類の生息種類調査を実施している。今後進めるにあたって、その場所の上下流の特性を調査するとともに、漁協、専門家に意見を聞きながら実施したい。事前調査、詳細な計画、事後のモニタリングも行いながら進めていきたい。

【中川】極端なことをいうと何もしないことも文化。ほかの都市河川と違う特性を保持するとか、際立たせるとか、そういうことを考えるべきと思う。鴨川を中心としたこれまでの文化、歴史的な構造物などの結びつきがどうなのかを京都市民にもしっかりと理解してもらうことが非常に大事。他所から来た人に、ただ見てくださいというだけでは問題がある。鴨川だけでなく、その周辺の影響を受けて、ずっと継続、伝承されてきたことを知ってもらおうと、鴨川をほんとうに大事にしようとなるのではないかな。その奥深いところを見ていくのが、鴨川にとって良い。

【川崎】鴨川とその支川の水系は、神聖な川としても利用されているが、その後は田園に利用されたりしている。昔は集落の水供給のマネジメントを上賀茂神社が行っていた。神社というのは聖域としての水の活用もするが、生活の水としての部分も管理していた。

【中川】外から来た旅行者が何を求めるか。そういった価値を問うことが非常に大事ではないか。そういう意見を広く聴取して、こちら側の考えたアイデアがほんとうに生かされるのかどうかを問うていけばいいと思う。

【中川】まだ原型までも行ってないが、プランをいろいろこれから考えていただくための材料になる。今後、このフォローアップ委員会を続けて、1つの大きいテーマとして、その都度ご検討願うということが非常に大事ではないかと思う。

【戸田】横断測量というのは河川の基礎データなので、世界的な鴨川であればなおさら、基礎データとして横断測量はきちんととってほしい。